躍動カフェ（淡路地域）　議事要旨

１　概　要

(1)日　時：令和６年７月 19 日（金）14：00～16：40
(2)場　所：県立淡路景観園芸学校 多目的ホール（淡路市野島常盤 954-2）
(3)参加者：齋藤知事、淡路地域（洲本市、南あわじ市、淡路市）に在住・在学・在勤等しており、企業の人材育成、有機農産物の生産、自然を活かした誘客など各方面で活躍している 31 名
(4)テーマ：人と自然の環が広がる淡路島、「はじまりの島」から始める持続的な未来への挑戦
(5)内　容：知事挨拶
グループ別意見交換（A～E グループ）
グループ別意見発表（A～E グループ）
知事総括コメント

２　意見発表の内容

Ａ　移住・定住（人の環が広がる暮らしの実現）

発表者：小林力（進行役）

現状と課題：

- 淡路の移住・定住について、大きな課題としていくつか出ていたが、共通しているのは「家」について。
- １つ目として、淡路島内で移住者が受けられる情報がなかなか出てこないこと。もしくはたどり着かないといった方が感覚的に近いかもしれない。
  移住・定住の情報が満足に受けられない、出てこないということについては、島外の方が嫁いできたい、移住を考えている方が、そもそも淡路のどこに住んだらいいのか分からないといったことや、住むエリアの選定、住める古民家があるのかなど、実際に見つかった、見つかりそうだとなった時に、支援やプロセスが不足している。
- ２つ目として、ハード面、家がないということ。淡路は人気が上がってきており、移住定住を検討される人が増えている一方で、賃貸やお試し住宅がない、足りていない、供給不足。
- ３つ目としては、島内には空き家が散見されるが、島外の土地所有者が多いこともあり、所有者に実際に売りに出してもらう、貸し出してもらうというアプローチがうまくできていないことが課題。

課題解決に向けて：

- １つ目の淡路への移住・定住を考える人にとっては、検討材料となる情報やプロセスが不足しているので、例えば、移住者希望者のニーズに沿って検討できる、１つの指針やプロセスがあって、それを支援できるようなものがあると良い。

- ２つ目の住居の供給不足について、例えば、島内のお試し住宅は数が限られていて、１年先まで使えないという状況もあるので、こういったハードの整備は必須。制度的なもので何か解決できるのであれば良い。
  具体的には、賃貸物件やお試し住宅は、営利を目的にするものもあると思いますが、お試し住宅等は、ハードを整える事業者向けに、何かしらの優遇措置や、個人の方が運営できるように、運営に関する制度を緩和する仕組みがあっても良い。
  まずは試しに泊まってもらうということが施策としてできれば、この住めるハード面での供給不足の解決につながると考える。
- ３つ目の、島外の方が持っている土地や空き家へのアプローチについては、実際に、町内会が中間支援組織となり、顔が見える人の話であれば、貸してもいい、売り出してもいいということもある。これは現実的にありえることかと思う。
- 外の不動産屋さんや県外の人が来ても、なかなか心を開いてくれないというようなところがあります。
  今回の参加者の中には、主に町内会の方が間に入って、顔の見える中間支援組織として、移住者の方が希望されていますよ、土地活用どうされますか？と説得されていくという先ほどお話したモデルのような町内会にお住まいの人がいたので、良い前例を参考にしたり、具体的にやっていることを洗い出すところから始めてみるのも良いのではないか。

Ｂ　働き方（新しいワークスタイルの提案）

発表者：横山史（進行役）

現状と課題：

- 新しいワークスタイル・働き方について、移住してきた側は、地元の方や企業と仕事をするのがすごく難しいと感じている。
- 先ほどの移住・定住のテーマに関連するが、空き家など、情報発信できる場所がない。これは淡路島特有ともいえるかもしれないが、淡路には駅がないことから、情報や何かが集まっていく拠点がなく、全ての情報がバラバラである。そういった状況の中で、どういった媒体があるのか、どの媒体から、どんな情報を得たらいいのか分からない。
- 淡路には、移住してきて働いている人やダブルワークで２拠点生活をしている人もいるが、問題もある。具体的に、島外から毎日のように通っている方に対しては定期券といった割引があるものの、たまに淡路へ行って仕事をする人にとってはそういった割引がなく、待遇に差がある。

課題解決に向けて：

- 新規移住者が元々島内にいる人と関わるのは簡単ではないが、銀行や地元の市役所など、そういった人が間を橋渡し役となって、ニーズに合わせて地元の企業を紹介、提案ができれば良い。そういった中間支援が増えてくると、移住してきた方、個人事業の方もなど、多様な働き方につながる。

- 情報発信について、県が求人サイト（淡路マッチボックス）を県が作成しているが、献上として、単発から応募できるバイトから跡継ぎを募集するもの、ダブルワーク可能なものなど、島内の働き方は多岐にわたるが、そのあたりが整理され、淡路ならではの働き方の事例等を伝えていくような、企画やコーナーのようなものがサイトとしてあれば良い。
- 頻度に関係なく、淡路に通って働く人が支援を受けられるよう、例えば、地元に住民票を置いている方に交通費としてバスチケットを提供したり、島内限定でＥＴＣ割引があったりする制度があれば良い。私も平日は神戸で働いて、土日だけ淡路に帰る生活をしているが、そういう土日だけ淡路に行く人たちへの支援がほしい。
- ダブルワークやトリプルワークについて、サラリーマンをしながら消防団の活動をしている方や、夏の時期は夏にできる仕事を、冬場は冬にできる仕事を、といったように、いわば淡路では、ダブルワーク、トリプルワークはごく当たり前だった。
　１つの仕事だけでなく、いろんな仕事をかけ持ちすることでライフワークのバランスを取っていく状況は、形が変われど、今日も同じ。それらの実例をまとめ、様々な働き方があることを発信してほしい。

Ｃ　雇用・就労（地域産業の人材確保・人材育成）

発表者：山中昌幸（進行役）

現状と課題：

- 仕事に関する情報サイトには情報がたくさんありすぎて、実際にどんな企業があるのか、どんな働き方ができるのか分からない。
- 大手の求人サイトになると、情報が膨大すぎて埋もれてしまうことがある。
　私が実際に遭遇した事例として、洲本出身で北陸の大学の４年生が、Ｕターンしたいけど、いざ調べようとすると情報があり過ぎて、どの企業が良いか分からないということで、直接相談に来られた。面白い中小企業はたくさんあり、実際私の方で紹介はできるが、とてももったいないこと。
- 島内への移住者が増えてきている中で、移住者には様々な思いがあるだろうが、例えば、過去に都会の大企業でバリバリ働いていたので、自然が豊かでちょっとゆっくり暮らしを大切にしたい、具体的には、週５日フルタイムで働くというよりは、例えば週３日だけ働きたいという人たちもいる。しかしながら、そういう情報も世間にはあまり出ていない。

課題解決に向けて：

- 仕事に関する情報について、実際に、重要と供給がマッチするようなシステムを設けてもらいたい。
　例えば、島内には外国人が結構増えてきているが、具体的にミャンマーの風景は淡路に似ているようで、ふるさとを思い出すような場所らしい。そういったことも需要の１

つではないか。

- リモートワークが当たり前の時代になり、今後は副業が可能になると思われるが、例えば、東京で働いている人を淡路に呼び込もうとしたときに、やはりネットだけでは分からないと思うので、実際に希望者と企業とをつなぐことは必要。
- 事業者側にも多様で柔軟な働き方ができることを認めてもらいつつ、実際に企業と移住者をつなぐことが必要。
- 経済産業省からの支援を受け、「島の人事部」という仕事情報サイトを立ち上げたが、運営が難しい。

　この案件を上手く回せるコーディネーターが必要。これを３市連携で、県民局も一緒に連携しながら、このコーディネーターを実際に仕事としてサポートできるようになれば良い。

Ｄ　農畜水産（豊かな農と食の持続と発展）

発表者：迫田瞬（進行役）

現状と課題：

- 農畜水産の担い手が減少して生産地が減る中で、やはり淡路島は、島の温暖な気候で育まれる農畜水産の安定的で持続的な生産供給と、淡路島の美味しく環境にやさしい食の提供、発信に向け重要な課題が出てきた。
- １つ目は、持続的な農畜水産業には人材の確保が必要であるということ。
- ２つ目は、環境保全と地域保全に貢献できる農畜水産業の確立。

　地域保全農業とは、具体的には、田植えなどを行ううえで欠かせない草刈りがある。民地ではなく、例えば地域の財産である池の周りなど。

　草刈りは、ほとんどのところが地域農家がボランティアで行っており、そこに予算がつきますが、この予算を取るためには、結局、地域の人が動かないといけない。半分予算つけるから、といった予算のあり方が現状としてある。

- ３つ目は、地域保全と発生するごみの資源化や生活環境とバランス化させる新技術の開発について。
- 最後に、水産業について。

　現在では、環境保全の観点で海がすごく綺麗になっていて、養殖業界にとっては海が綺麗なことはすごく良い要素なのかもしれないが、一方で漁業の立場で考えてみると、漁師さんにとって海が綺麗ということが良いものなのか、それが水産の漁獲高につながっているのか、という疑問もある。

課題解決に向けて：

- 人材確保に向けたアイデアとして、異業種との人材獲得競争の中で、農畜水産業の魅力を伝える仕組みづくりをする。

　この魅力というところに色んな要素が含まれており、各企業の努力による給与待遇、働き方では休日等の処遇を含めたやりがいなど、どう魅力を伝えていける仕組みを作っ

ていけるか。

- 草刈りについて、ボランティア的な要素で地域農家が対応していくのはしんどいというところで、もう完全に国に任してしまうというのを提案する。
　民地でない箇所の草刈り等については、地域の人が介入することなく、与えられた予算を使って、地元の土建業者に草刈りを依頼する、といったように、ボランティア的なところを無くしていくところと、ビジネスとして、法人や個人農家が人を雇ってやっていくところは分けて考えられると良い。
- 地域保全と発生するごみの資源化や生活環境とバランス化させる新技術の開発について、先ほどの草刈りで例を挙げると、草と微生物とたい肥を混ぜて、肥料する技術の開発などを目指していけると良い。
- 水産業の事例などをそういったところも含めて、色んな観点から検討し、技術開発をするなどしてバランスを取ってやっていく必要がある。

Ｅ　観光（選ばれる観光地への転換）

発表者：竹谷富士子（進行役）

現状と課題：

- 淡路を観光のとして選んでもらうための課題として、１つ目は淡路島の魅力が島外に十分伝わっていないということ。
　実際のところ、淡路に住んでいる地元の人は、淡路島のことが好きと思って暮らしているのか分からないし、淡路島の良いところについて島外の人に話せるか。
- ２つ目の課題は、島外の人に魅力を伝える発信ができていない、もしくは発信力が乏しいところ。
- ３つ目は交通機関について。観光者にとって不自由なことが多く、お盆といった連休時には渋滞してしまう。

課題解決に向けて：

- 淡路島の魅力が島外に伝わっていないのは、地元の人が、淡路島の魅力について知らないから伝えられていないと考える。
　自分の生まれ育ったところに誇りや魅力を感じていない人も多いのかもしれない。
- 淡路島の魅力発信を高めるために、淡路島にしかないもの、淡路島にしかない一番の魅力を伝えることが大事。淡路島といえばこれ！ということを、まず地元に暮らしてる人たちが知らなければならない。
　沖縄であれば青い海、京都であればお寺というように、淡路島にも古事記からくる「始まりの島」というところがあるので、ゆるキャラみたいなものを作ってグッズを作る。そうすることで、若い人にも楽しんでもらえるエンターテイメント性を織り交ぜつつ、国生みとか古事記の重要性が伝えられるのではないか。
　国生みについて、古事記ができた頃にやはり淡路島が日本にとって要であり、だからわざわざ書き物として残しているところの重要性を、私たちがもっとやはり深掘りし、

教育機関でも古事記のことについて学ぶ時間も必要。

淡路島は自然もすごく豊かで、自然環境も魅力的。昆虫や海浜植物、両生類などを県立淡路景観園芸学校等の研究機関と一緒に連携していくというのも良い。研究と観光の両面から魅力を発信していくのもアイデアとして提案する。

淡路島は線香や淡路瓦といった伝統文化も豊富。これらは魅力的にストーリー立てて伝えていくことも大切。

- 交通機関について、理想ではあるが案として、海のブルーツーリズムや水上飛行機、空飛ぶタクシーといったものが開発されてほしい。現実的には、カーシェアリングなどを有効に活用し、一般の人が乗り合わせることで、交通網を整備できればいい。
- 数というよりは、本当に淡路島が好きで質の高い観光客を呼び込めるか。呼び込めた先に、人と人の関係性、あの人がいるから淡路島に行きたい、あの人がやっている線香だから一緒に体験したい、といったように島の人の魅力、おもてなしを伝えていくことがこれからの淡路島にとって、観光にとって大切。

３　知事総括コメント

- 多岐なテーマにわたる発表をしていただき、大変興味深く聞かせていただいた。淡路島は、関西の中で観光地として大変人気がある地域であること、あわせて移住される方も増えており、そういった観点から、多様な働き方、そして職とのマッチング、あとは観光をもっと活かしていこうということが共通の問題意識だと思っている。
- 来年万博がありますし、その後にもいろんなチャンスがこれから広がっていくが、観光振興や地域活性化、そして農林水産業などは大事な淡路島の産業であり、県としても、しっかり皆さんの力を借りながら県政を進めていく。
- それぞれのテーマで多様なご意見をいただきありがとうございました。